

令和2年度 学校評価 評価項目等

★大枠は本校の本年度の重点課題

能登町立駒川小学校

学校経営目標	具体的取組	通し番号	実現状況の達成度判断基準	時期・評価材料	アンケート番号	担当	第1回自由評価	第2回自由評価	取組状況 改善案等
① 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る取組	4教科の単元末テストで、当該単元の目標通過率(80%以上)を達成できている。	1	●達成できている児童の割合 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	4教科『単元末テスト』の点数の平均値	15	研究	B		国語=82.4% 算数=93.0% 社会=89.2% 理科=91.9% ●前期の授業で、児童の「わからない」に 着目の授業で、児童の「わからない」に 着目の授業を見取り、授業を指導していく。そ のため時間を確保するために、題意の把握 を7分間で行う。
	『漢字力テスト』において、各学年の目標通過率(90%以上)を達成できている。	2	達成できている児童の割合 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	年間5回『漢字力テスト』の点数	16	研究	B		1学期: 47人 ●動室タイムを有効活用する。 ●ドリルの直しを徹底する。
	『計算力テスト』において、各学年の目標通過率(90%以上)を達成できている。	3	達成できている児童の割合 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	学期末『計算力テスト』の点数	17	研究	B		1学期: 48人 ●動室タイムを有効活用する。 ●ドリルの直しを徹底する。
② 主体的に考え、学び合う学習を成立させる取組	学力向上プラン「目指す姿(授業)」をイメージして、授業を行い、学力の向上を図っている。 ★【学校研究の視点】	4	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 教員アンケート	1	研究	A		
	学力の向上プラン「目指す姿(基盤)」を達成できるよう、取組を理解し実践している。 ★【学校研究の視点】	5	●大事な用語を使って順序よく説明できていると感じている児童の割合 アンケートの『肯定的な評価』の割合 (児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	1学期末 児童アンケート	6	研究	A		●前期、授業の進度で一杯の中、原典問題に先生方が真摯に取り組んでくれた。自分の考えを表現する子は多い。困り感などそのための時間を確保するために、題意の把握を7分間で行う。
	学力の向上プラン「目指す姿(基盤)」を達成できるよう、取組を理解し実践している。 ★【学校研究の視点】	6	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	1学期末 教員アンケート	2	研究	B		●話し合う素地(話し合いの仕方、児童の話し合う意識、学級の雰囲気)を養う1学期だったと思う。まだまだ児童だけで話し合いを進め解決していくのは難しい段階である。 ●塾別5タイムの共通実践を進め、研究授業等で検証していく。
	タイムマネジメントを意識して、授業改善に取り組んでいる。 ★【算数科において: 3問完結】	7	●わかっていことを赤、書いていことを青で書くことができると感じている児童の割合 アンケートの『肯定的な評価』の割合 (児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 児童アンケート	5	研究	B		●話し合う素地(話し合いの仕方、児童の話し合う意識、学級の雰囲気)を養う1学期だったと思う。まだまだ児童だけで話し合いを進め解決していくのは難しい段階である。 ●塾別5タイムの共通実践を進め、研究授業等で検証していく。
	タイムマネジメントを意識して、授業改善に取り組んでいる。 ★【算数科において: 3問完結】	8	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	1学期末 教員アンケート	3	研究	B		●1時間3問完結させるのは難しかった。●中期プランで題意の把握を7分間で行うことを示した。2学期の取組に期待したい。
	「三角ロジック」等の話型、聞き方のスキル等、学習用語を使った発表の仕方、話し合いの仕方の指導などの児童の表現力を高める手だてを意図的に行っている。	9	●話し合い等で、自分の考えを伝えることができると感じている児童の割合 アンケートの『肯定的な評価』の割合 (児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	1学期末 児童アンケート	7	研究	B		●話し合いの仕方の一つである「塾別5タイム」の共通理解をすることができた。 ●2学期、その共通理解を基盤として共通実践を行い、児童のレベルアップを目指す。
	児童は、授業を通して身に付けたことを、次の学習や実際の生活で役立てることができたと意識している。	10	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	1学期末 児童アンケート	11	研究	B		●児童アンケートの結果は良好に見えるが、実際はまだまだ不十分である。 ●原典問題に取り組んだり、生活に結びつけて考えさせたりしていく。
	校内『活用力問題』で、目標通過率(60%)を達成できている。	11	達成できている児童の割合 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	1学期末 『活用力問題』の成績	18	研究	D		●前期の取組で、得意な分野が分析できた。問題場面からの決定が不十分であること、多くの情報から必要な情報を遊び乗除を決定することである。 ●複雑な問題場面を数理的に捉える原典問題に取り組む。
	児童の家庭学習のめやすの時間が守られている。(1年:20分,2年:30分,3年:40分,4年:50分,5年:60分,6年:70分)	12	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	1学期末 児童アンケート	16	教務	A		●家庭学習の手引きを児童に配付し、説明を行った。また、「パワーアップ週間」を設けた。その結果、肯定的回答が91.2%となった。 ●守られていない児童がいるので、家庭学習の量や個人に合わせた内容を考える。 ●時間を守っている児童の中でも、集中することが難しく、ただ時間が経過している児童もいる。家庭学習の内容を確かめる。
④ 家庭学習の定着を図る取組	『家庭学習の手引き』等を活用して家庭学習の内容、方法等について具体的に指導し、児童が何をどのようにすればよいかを明確にして、家庭学習の定着に努めている。	13	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 教員アンケート	5	教務	A		●家庭学習の指導について、共通理解・共通行動を図った。3年生以上では、毎日、開閉などをチェックしている。 ●家庭学習をすることによって困難な児童への原因究明も手立てを考へる。
	『家庭学習の手引き』等を活用して家庭学習の内容、方法等について具体的に指導し、児童が何をどのようにすればよいかを明確にして、家庭学習の定着に努めている。	14	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (保護者アンケート) A: 80%以上 B: 70%以上80%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	1学期末 保護者アンケート	11	教務	A		●「パワーアップ週間」のお便りを発行するなど、保護者と共通理解をして行っている。保護者アンケートの結果は、89.5%であった。 ●児童アンケートと保護者アンケートの結果から、家庭学習の時間は守られているが習慣となっていないことが浮き彫りとなった。家庭学習を行う時間帯を決めることにより、習慣化を図る。
⑤ 学習規律の定着を図る取組	『うかわっ子の学習ルール』をもとに、全校一致して指導にあたっている。	15	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 教員アンケート	6	教務	A		●教師で学習ルールの確認を行い、児童に説明を行った。各担任が定期的に持ち物チェックをしたり、ルールの確認を行った。●学習ルールの確認と必要性を問う取組を続ける。
⑥ 読書活動の推進を図る取組	『読書冊数年間100冊以上』等の啓発活動において、目標値を達成できている。	16	A: 80%以上が目標達成できた B: 70%以上80%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	1学期末の読書記録等、学校全体としてのデータをもとにする	19	図書	A		1学期貸出冊数30冊以上の児童48名(84.2%) ●児童の現状を把握して、個別に目標を持たせる。また、実践を行う。 ●縦割りに対抗読書ラリーを行う。 ●図書委員会による読書の楽しさや大切さを伝える寸前で本を借りるきっかけづくりをする。
⑦ 授業力の向上を図る取組	『模擬授業』、『研究授業』、『校内研修サポート事業』、『要請訪問』、『校内ショート研修』の活用等により、授業力の向上が図られている。	17	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 教員アンケート	7	教務	A		●模擬授業、研究授業において、活発に意見が出ている。異なる考えに触れることができ、参考になっている。 ●学校研究から、視点を持って取り組む。

2	⑧	思いやりや感謝の心を持ち、何事にも一生懸命に取り組む豊かな児童を育成する。	児童理解の会での共通理解と共通指導の徹底、人間関係づくりに関する校内研修会の開催等により、児童のよりよい人間関係の構築に努めている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 教員アンケート	8	生徒指導	A	●支援を要する児童について共通理解したことで、職員全員での共通指導につながっている。 ●校内研修会での事例検討によって、職員の役割を具体的に話し合い、指導に生かしている。 ●自己肯定感を高める声掛け、取組を行っている。 ●学級担任だけに任せず、学校全体で見取っていく意識を持って取り組む研修等を見学させる。
		児童の連帯感を高めるとともに、心と心が触れ合う人間関係を構築し、たくましい実践力を育成する。	学校訪問や学校公開時に積極的に保護者や地域の方々に道徳の授業公開を行っている(1回以上)。	授業公開を行った教員の割合 A: 80%以上90%未満 B: 60%以上80%未満 C: 60%以上50%未満 D: 50%未満	1学期末 授業公開を行った回数		道徳	D	●1学期は新型コロナウイルス感染症対策のため授業参観等を行うことができなかった。 ●2学期は、状況を見ながら学校公開の期間に授業参観を行う。
		道徳教育の充実を図る取組	道徳の授業では、学校行事や特別活動、実生活等との関連付けをしながら、道徳的な実践力が高まるように努めている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 教員アンケート	9	道徳	B	●児童が考えやすいように関連のある行事や実生活について例示するようにしている。 ●毎時間、自分の生活を振り返ったり、これからの自分の生活を考えたりする時間を設定している。 ●自分事として考え議論ができるようにする。
3	⑨	健康や体力の増進に取り組み、心も身体も元気でたくましい児童を育成する。	ゲストティーチャー、地域人材、外部講師などを活用した授業づくりを行っている。	外部講師等を活用して授業を行った教員の割合(学期に2回以上) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 外部講師等を活用しての授業を行った回数	20	道徳	D	●コロナウイルス対策もあり、ゲストティーチャーなどを活用した授業ができなかった。 ●職員への呼びかけ、職員向け道徳だよりを通して、G活用の見直しを持ってもらう。
		基本的な生活習慣の確立を図る取組	児童は、『早寝・早起き・朝ごはん』が身に付き生活習慣の確立が図られている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 保護者アンケート	9	保健	B	●コロナウイルス対策のため、6月の学級懇談が中止となり、直接保護者へ呼びかけができず、代用として保護だよりで啓発した。 ●2学期以降の学級指導及び学級懇談で基本的な生活習慣が確立できるよう啓発活動を行う。
		体力の向上に関する取組	児童は、挨拶が身に付き生活習慣の確立が図られている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 保護者アンケート	8	生徒指導	A	●学校外に出ても自分からあいさつをするができる児童が多い。 ●スマートフォン、ゲーム等の使い方について保護者と連携しながら、指導を行う。
4	⑩	本校の健康課題を克服する取組	児童の歯や口の健康についての児童の意識を高めるとともに、う歯の治療に関する目標値を達成できている。	達成できている児童の割合 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	学校全体としてのデータをもとにする		保健	D	う歯治療率=50.0% (後10人で全員完了) ●1学期の個人懇談の際、年度をまたいで治療を怠っている保護者に対して、面談を行った。 ●今後も継続して計画的に啓発活動を行う。
		地域の教育力を活かし、地域に根差した教育活動を展開する。	HPの更新、学校だよりや学級だよりの定期的な発行等を通して、学校での教育活動の様子を積極的に伝えようとしている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 保護者アンケート	13	教頭	A	●今年度、HPの構成を変更し分担任で更新することでタイムリーな学校での出来事をアップすることができた。 ●学校だよりや学級だよりを通して、学校や児童の様子を伝えることができた。
		地域素材や人材の積極的活用を図る取組	地域の素材を元に学習活動や海洋教育を行ったり、地域の人材を活用したりして、『ふるさと学習』を積極的に展開している。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 教員アンケート	11	教務	B	●コロナウイルス対策をしながら、生活科、社会科や総合的な学習の時間などに地域の自然や地域の方と触れ合うことができた。 ●児童、指導者の必要感に応じて展開していきたい。 ●道徳でも取り組んでいく。
5	⑪	安心で安全な学校作りを推進する取組	避難訓練や防災訓練等を通して、非常事態発生時の緊急行動、避難行動の仕方等を理解し身に付けることができている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 教員アンケート	12	教頭	A	●事前指導一訓練を行うことで、児童は行動の仕方を理解し、身に付けることができた。 ●不審者対応では、具体的にどう動けばよいか運営者の方から指導を受けた。 ●しっかり理解し、実際に災害が発生した場合を想定して臨みたい。 ●想定外の非常時でも状況に応じて臨機応変に行動できるよう事前準備・指導を行う。
		多忙化改善・業務の効率化を推進する取組	最終退校時刻を意識し、業務改善・効率化に努めている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	1学期末 教員アンケート	13	教頭	A	●時刻を意識し、業務の優先順位を付けて取り組んだ。 ●夏季休業中に2学期の見直し・準備を行った。 ●引き続き、行事や提出物等、年間を通して決まっているものは、計画的に事前準備を行う。

学校関係者評価委員会での評価と意見聴取

<p>学校関係者評価委員会での評価と意見聴取</p>									
----------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--